

# お宝引っ越し術、日本に学べ

ツタンカーメンの黄金のマスクなど、エジプト考古学博物館の収蔵品約10万点の引っ越し準備が行われている。といっても、ここは東京都内。準備をしているのは、日本の梱包・移送技術を学ぼうとやって来た7人のエジプト人博物館スタッフだ。至宝の数を傷つけないと、日本通運のスタッフから研修を受けている。

カイロ市中心部にあるエジプト考古学博物館の展示品は2年後、3大ピラミッドで有名なギザ地区に新築される大エジプト博物館へ移される予定だ。今夏には収蔵品を管理する保存修復センターが完成。今後、10万点が荷造りされたうえで、約15万点、引っ越しする。

来日中の7人は、センターで保存修復を担当するリーダー格のスタッフ。国際協力機構（JICA）と国立文化財機構東京文化財研究所が協力し、日通に講師を依頼した。日通は1950年代から国内外の美術館・博物館の収蔵品輸送を手がける専門部署があり、スペシャリストも育成している。

約2週間の研修で7人は、日通が本物と同じ材料で模造した埴輪や仏像などを使って実習している。

## エジプトから研修生

日通の専門家から、「そのひもの結び方じゃ、すぐにほどけてしまう」「文化財に直接手を触れる回数があるべく少なくなる手順で」と、注意を受けながら作業していた。ピラミッドからの発掘品を梱包した経験があるエジプト人スタッフの一人も「作業中は姿勢に注意し、指輪や腕時計は外すなんて初めて知った」。紙で綿を包んだ「綿枕」など初めて使った梱包材にも「参考になる」と話した。



模造の埴輪を使い、日通のベテラン社員から梱包を学ぶエジプト人  
 東京・上野の東京文化財研究所